

産業組織論 第10回

自然独占

価格差別の練習問題について

P.68 問題4

- (1) $P_A = P_B$ として需要曲線を足すと $Q = 120 - 3P$
- (2) A市とB市で別々に独占の利潤最大化問題を解く
- (3) 定義通りに弾力性を計算するだけ

自然独占とは

自然独占: 単一企業が生産を行うことが最も少ない費用での生産が可能な状況。

$$C(y_1 + y_2) \leq C(y_1) + C(y_2)$$

(費用関数の劣加法性)

注意: y_1, y_2 は実数ではなくベクトルなことも。

通常の特占と自然特占

競争条件が平等でない

- 法的規制(役所による許認可)
- 特許

戦略的なライバル企業の排除

- 既存企業による略奪的価格付け
- 談合

こういったものは自然特占とは呼ばない

自然独占の起こる要因

- 規模の経済
- 範囲の経済
- 巨額の固定費用

範囲の経済

複数種類の財をまとめて生産することで費用を減らせること。製品ラインナップ、多角化。

$$C(y_1, 0) + C(0, y_2) \geq C(y_1, y_2)$$

例

- 石油製品（ガソリン・軽油・灯油・重油等）
- 垂直統合（部品と最終製品）
- 電話・電力等の昼間と夜間

新規参入

既存企業の利潤が大きい場合、新規企業の参入があり得る。

新規参入企業の限界費用が既存企業より低い場合、

- 既存企業→新規参入企業に顧客が移動(既存企業の利潤減&新規参入企業の利潤、生産費用効果)
- 価格の低下による取引量増加(供給拡大効果)
 - 新たに消費可能になる消費者の発生
 - 生産量増加による利潤の増加

新規参入

他方、

- 規模の経済
 - 新規参入企業の限界費用が高い場合
- には、新規参入により社会的余剰が減少する可能性がある。

参入と退出

企業が参入するかどうかは

- 参入した場合に得られる利潤
- 参入に要する費用

を比較して決定。一方、退出するかどうかは

- 固定費用が一部でも回収可能か(短期)
- 利潤がマイナスか(長期)

によって決まる。そのため、参入と退出は対称ではない。

過剰参入

- 新規参入企業は固定費用を支払って参入するから、顧客が移動する効果がほとんどの場合には社会的余剰の増加はあまりないので、トータルでは社会全体にとってマイナスとなる可能性がある。

⇒ 過剰参入